

TRPU NEWS

富山県立大学ニュース

No. 137
| Winter | 2023



p.2-3 Close-Up県大

なぜ本学の就職率は高いのか!
就職支援・キャリア支援のヒミツは……。

p.4-5 キャンパストピックス

p.5 インフォメーション

p.6 受賞情報

p.6 学生レポート

p.7 研究紹介

p.8 サークル紹介・スケジュール



「ドンドンマスマス 富山県立大学」
プロジェクトリーダー ドンマス教授

なぜ本学の就職率は高いのか！ 就職支援・キャリア支援のヒミツは……。

毎年100%近い就職率を誇る本学工学部。この春、第1期生を送り出した看護学部もそれに続き、「就職に強い大学」として全国的に高い評価を得ています。今号では、本学の就職支援、キャリア支援の概要を紹介し、高い就職率のヒミツに迫ります。



キャリアセンターではキャリア・就職支援に関わる様々な相談ができます。

令和5年3月に卒業した本学学生の就職率は、工学部で99.7%、看護学部で96.6%（いずれも進学者は除く）。工学部は毎年、高い就職率を達成しており本学の特徴の一つに数えられ、看護学部もそれに続く形となりました。

就職先は、工学部では機械、電気、情報通信、化学、製薬などの製造業がメイン。県内の主だった製造業の他に、日本を代表するような大都市圏のメーカーでの就職を決めた卒業生も多数います。看護学部においては、県内外で多くの公立・公的病院での就職を決めています。国や自治体での活躍が期待され、その分野で力を発揮している卒業生も多く、在籍した学科で学んだことを官民間問わず様々な分野で生かしています。

このように高い就職率を実現するために、本学ではどのような支援を……？

職業人としての意識を高める

「本学では、工学部生も看護学部生も1年次から様々な『キャリア形成科目』を履修します。これは専門の職業人としてどのように生きていくか、働いていくかを考えるための科目です。工学部の場合は、企業の見学や社会人を招いて経験談をうかがったり、技術者倫理などを学びます。看護学部でも医療や保健、福祉の現場などのお見学の他、それらの活動に参加する中で、健康の意味や看護の役割を考察し、また看護職の多様性について理解していきます」

こう語るのは、キャリアセンター（射水キャンパス）の鈴木真由美所長。看護学部（富山キャンパス）には「キャリアセンターサテライト」が整備され、それぞれの学生の将来設計とともに、具体的な就職活動の支援も行っています。

卒業生の葛西海智さんが振り返ります。

「私は学部2年生の時に『トピックゼミ』の授業で、県内の複数の製薬企業を訪問し、薬の製造や開発に携わっている方々のお話をうかがいました。その時はまだ進学も就職も決めていなかったのですが、薬の製造や開発の内輪話をしてくれて興味を持ったのを覚えています。普通でしたら、社員になってから聞くような話を、ゼミの一環で訪問した学生にしてくれたので、これを契機に製薬企業への関心が芽生えました」

主な就職支援には……

こうして、社会に出て働くことの意義を学んだり、職業人としての意識を高めたりする機会を提供する一方で、キャリアセンターやサテライトでは具体的な就職支援も行っています。本学の就職支援の主な事項を表に示しました（一部キャリア形成支援含む）。「進路ガイダンス」では、そもそも進学か就職かの進路選択にあたっての留意事項の説明から始まり、面接の際のマナーや自己PRの方法、就職活動の現状と対策などを6回程度開催。工学部ではこの他に、1～3年生、大学院1年生を対象に「シルモク」（「企業を知る木曜日」の略称）というイベントを年に10回程度開催しています。このシルモクは、県内企業の経営者やそこで働く本学OB、OGが登壇し、商品や技術の特徴などを紹介する他、就職活動にあたっての留意点などもアドバイスします。鈴木所長は、「シルモクは、キャリア形成支援とともに就職活動支援の側面も有している」と語ります。

OBの戸瀬良太さんに、キャリアセンターの支援の中でどのメニューが役立つかをうかがうと、以下のような答えが返ってきました。

「キャリアセンターのサポートでありがたかったのは、面接の際のマナーや自己PRの方法など、面接対策について細かく指導を受けることができたことです。特に模擬面接ではキャリアセンターの方が面接官の立場に立ち、本番さながらの質問をしてくれました。時には想定外の質問もあり、実際の面接の場で取り乱さないように練習できたことは大きな収穫でした」

戸瀬さんは、大学院1年生の11月から候補企業の情報収集を開始。年が明けてインターンシップに参加するなど候補企業を絞り、3月には面接に進みました。そして希望していた企業から月末に内定を得たのです。早々と内定を得ることができたのは「模擬面接のおかげかもしれない」と振り返るが、前出の葛西さんも「模擬面接に加えて、エントリーシートの書き方の指導もありがたく、『こういう書き方をすると、面接ではこういう質問がくるかもしれない』と実践的にサポートいただいたのが印象に残っています」と付け加えました。



富山県立大学
キャリアセンター
鈴木 真由美 所長

工学部機械システム工学学科教授



(株)池田模範堂
研究所 製剤設計2グループ
葛西 海智 さん

令和4年 大学院工学研究科
博士前期課程
生物・医薬品工学専攻修了



黒田化学(株)
グローバル技術部
戸瀬 良太 さん

令和4年 大学院工学研究科
博士前期課程
機械システム工学専攻修了

不安を取り除く手立てを

最後に、「これから就職活動を迎える学生やその保護者のみなさまに何かアドバイスはありますか」と尋ねました。戸瀬さんからは「就職支援のサイトに登録して、受け身の情報に頼るばかりでなく、キャリアセンターに行ってみる、企業の説明会に行ってみると、その1歩を踏み出すことが大事だと思います。その1歩が次の2歩目につながります」と、また、葛西さんからは「同級生の就職活動を見ていて思ったのは、苦戦している人は不安のスパイラルに陥っているようです。小さな不安が重なり、大事な時にマイナスに働く。家族や友人に相談しようにも、近しいがゆえに話しづらくときもあります。そういう時、就職支援の経験が豊富なキャリアセンターなどに相談に行き、不安の元を解決する手立てを講じたらいいいのです」と、お二人からアドバイスをいただきました。

そして鈴木所長は、「戸瀬さん、葛西さんのコメントにもあるように、学生のみなさんは、誰かに相談する1歩を踏み出すことが大事かと思います。とはいえ、対面での相談が苦手な場合もあるでしょう。授業の質問や就職活動の情報交換については、教員と学生の間でメールやチャット等が既に活用されていますが、キャリアセンターと学生間でも、このようなツールを活用して気軽に相談できるような体制の構築を検討していきたいと思います。また、就活中の学生は大きなストレスを感じています。家族のみなさんは彼らの一番の味方として、まずはそっと支えていただき、アドバイスは学生が求めてきた時にしていただければと思っています」と就職支援をさらに充実させるための抱負を語りました。



県内医療機関の協力のもと、看護学部学生向けに医療機関説明会を開催しています。各機関の特色や魅力、キャリアアップ制度などの職場環境の紹介がなされ、同席する若手看護職の生の声を聞くこともできます。

主なキャリア・就職支援スケジュール

工学部	
2年次	2月 教えて先輩! インターンシップ知ったクセミナー
3年次	5月 進路ガイダンス(4年次5月まで計6回実施) インターンシップ受入企業説明会
	7月 インターンシップ事前研修会
8~9月	インターンシップ、キャリア支援セミナー
	10~12月 公務員試験対策講座、エントリーシート作成講習会、SPI試験対策講習、模擬面接、学内合同企業研究会
2月	進路セミナー

看護学部	
1年次	4月 キャリア支援に関するオリエンテーションI
2年次	5月 キャリア支援に関するオリエンテーションII
	1月 キャリア支援に関するオリエンテーションIII、 就活準備スタート交流会
3年次	6月 看護職シンポジウム、進学ガイダンス
	9月 県内医療機関説明会
	12月 履歴書・面接・小論文対策講座



キャリアセンターでは、キャリア形成科目のほか、進路ガイダンス、エントリーシート作成講習会、模擬面接、合同企業研究会、シルモク、企業の情報提供、SPI試験対策講習及び個別指導等を行っている。



キャリアセンターサテライトでは、医療機関等の採用募集や大学院、助産師・保健師専攻課程等の学生募集の情報提供、若手看護師等との交流会、医療機関等説明会を実施している。